



Title	研究ノート：科研勉強会「助動詞 acabar+ de 直接目的不定詞から考える」(20240224)を契機として
Author(s)	林田, 雅至
Citation	
Version Type	A0
URL	https://hdl.handle.net/11094/98908
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

研究ノート：一科研勉強会「助動詞 acabar+ de 直接目的不定詞から考える」

(20240224)を契機としてー

大阪大学名誉教授

京都外国語大学-令和5・6年度共同研究「教育メソッド-教育コンテンツ研究」研究協力者

林田雅至

表題・勉強会を契機として、[相助動詞]acabar de (... したばかりである)に関して、『プログレッシブポルトガル語辞典』市之瀬敦，トイダ・エレナ，林田雅至，吉野朋子編，小学館(2015)の藍本： *Dicionário Verbo Língua Portuguesa*(2006)には，終止あるいは変化を示す終結相助動詞：Acabou de acordar.(目を覚ましたところだった：過去終結相) Acaba de sair.(出かけたところだ：現在終結相)と例文に，過去終結相と現在終結相が順番に挙げてあるが，この順番はやはり意味があって，まず過去終結相があって次に現在終結相となり，実際は発話において圧倒的に過去終結相が多いことを示していると思われる．新聞の見出しでは書き言葉として現在終結相が維持されるが，定量分析で頻度を確認する必要があるだろう．そこで，科研勉強会以後，2023-24 年度にわたって，URL： [NOW Corpus: Portuguese](#)(約 11 億例文)を活用して，本動詞 13(瞬間動詞：chegar,acordar,sair；達成動詞，conhecer,saber,fazer など，継続動詞：aumentar,ler,jogar)との組み合わせで，直説法・完全過去形：1・2 人称(você を含む)単数複数形&同・現在形などの例文を抽出記述し，過去形&現在形の相対比率を求める作業に着手した．まだ道半ばであるとは言え，やはり，完全過去形の方が現在形に比して，多く発話(記述)され，「書き言葉」に相当する 3 人称単・複数形は逆に現在形の方が完全過去形より優勢になる傾向が帰納法的に見えて，大まかな全体像は把握しつつある．

その過程で， *Dicionário Verbo Língua Portuguesa*(2006)「valor durativo(持続・継続相)の前置詞：a を従える相助動詞：estar」が現われ，『現代ポルトガル語辞典』池上岑夫，金七紀男，高橋都彦，富野幹雄，武田千香編，白水社 (1995-2008)の藍本 *Dicionário Aurélio da Língua Portuguesa*(1975-2010)の前置詞：a の項目「c)Regendo no verbo infinitivo, entra na construção de formas verbais perifrásticas(迂言法動詞≡助動詞転成) que têm o valor de gerúndio(動名詞＝不定詞):*estar a chorar*(=‘*estar chorando*’): ()内日本語は林田補足」と記述がある．そこで，gerúndio について，教育課程でどのように知識注入されているかを調べた．引き続き， *Aurélio*.(1975-2010) : O gerúndio pode ter função adverbial(*Passa a vida resmungando*), ou pode ter função adjetiva(*Queimou-se com água fervendo*[=fervente]).と記述されている．Cf.使用頻度数：fervente：682(/1,325)≒51.5%；fervendo：

643(/1,325)≒48.5%([NOW Corpus: Portuguese](#) : 最終閲覧日:2024 年 12 月 10 日)

一方、ポルトガル・日本語辞書に関して、小学館(2015): gerúndio(男)『文法』①ジェルンディウム、動名詞②現在分詞、白水社(1995-2005): gerúndio(男)『文法』現在分詞、大武和三郎編『葡和辞典』(1937): gerundio,m.[文]動詞的名詞(語尾 r を ndo に変えたもの、と主として語義だけが淡泊に記述されるのみで、文法的機能を分かりやすく記述した体裁をとっていない。「文法」とあるが、また、動詞的名詞、つまり「動名詞」とあるものの、語尾 r を ndo に変えた「現在分詞」と規定している。日本で刊行される実用的学習教材(文法書)には、相助動詞ではなく、自動詞として estar が記述され、例えば、estar+chorando において、本動詞 chorar の現在分詞(「動名詞」という用語を用いず)を従え、(現在)進行形の意味であり、ブラジル・ポルトガル語の正用と説明し、基本的に我々の世代(1970 年代)からその説明は継続している。他方、a+不定詞は同義として、欧州ポルトガル語の正用と位置付けられる¹⁾。

そこで林田は別添資料にもあるように、市之瀬敦・トイダ・エレナ・吉野朋子先生らとともに編集委員であった小学館(2015)をサンプルに提案している：

林田案：gerúndio(男)『文法』ジェルンディオ①名詞的機能＝不定詞：Ele continuou falando .=continuou a falar. 彼は話し続けた。②副詞的機能：分詞構文：Ela passa a vida resmungando.彼女はぶつぶつ言いながら人生を送る。③形容詞的機能＝現在分詞(particípio presente)動形容詞：Você queimou-se com água fervendo[=fervente]. あなたは煮え湯で火傷した。

実は③が問題で、黒澤直俊先生が別途、的確に指摘される通り「後期ラテン語の段階で口語の影響からか区別はなくなり、gerúndio(動名詞)的な形が particípio presente(現在分詞)を吸収してしまった」(参考：ラテン語：現在分詞「動(詞的)形容詞(動詞由来で動詞及び形容詞の機能を有する)のであるが、*Dicionário Verbo Língua Portuguesa*(2006)には particípio presente(現在分詞)の項目が現れ、林田が()内日本語を加筆して以下のようになる：O que apresenta a terminação -nte e corresponde aos adjetivos(preocupante, temente, seguinte : (動[詞的]形容詞) ou substantivos(ouvinte,falante : (動[詞的]名詞), ou às preposições como durante,mediante,tirante etc : (動[詞的]前置詞), etc.

そうすると、従来単純に動名詞＝現在分詞とした説明が文法的に機能しなくなり、日本のポルトガル語教育現場では混乱が生じることになる。あるいは既に起こっているかもしれない。

また、Francisco Fernandes, *Dicionário de verbos e regimes* (1940-2008) : Ir : Auxiliar – Junto ao **particípio presente**, exprime a idéia de progressão gradual(漸次進行相), indicando que a ação do verbo se realiza a pouco e pouco.()内日本語は林田加筆。

同様に F. F.(1940-2008) : vir : Auxiliar – Junto ao **particípio presente**, serve de verbo auxiliar : ”O sol VINHA NASCENDO.”(Brandão,*Sintaxe*,219) : Thomaz da Silva Brandão, *Syntaxe e construção da Língua Portuguesa*,1888.と記述があり、この動詞辞典で、particípio

presente という文法用語が使用されているのはこの2か所だけである。

因みに、gerúndio は同辞典で estar : Relativo : | –unido ao gerúndio de outro verbo, serve de exprimir uma ação que se prolonga durante algum tempo: *Estou fazendo um drama em cinco atos. "Está vivendo dificilmente; Estou escrevendo."* (T.Brandão, *Sintaxe*, 183) : Thomaz da Silva Brandão, *ibid*, 1888., これのみで、ただし、Relativo : acabar, concluir por+infinitivo との同義という記述 : acabar, concluir + gerúndio が存在する。一方、estar a+infinitivo = gerúndio の記述はない。なお、Relativo : concluir por+infinitivo = gerúndio の記述は、この動詞辞典のみで²⁾、V(2006), *Aurélio*.(1975-2010)にはなく、従って、それぞれを藍本とする日本の両辞書にもない。³⁾

助動詞 ir, vir に関わる *particípio presente* は現代語文法の gerúndio であって、吸収される前の段階であり、現代の *particípio presente* ではない。また、この動詞辞書で多用される Relativo は、一般的には文法用語の関係代名詞(副詞、形容詞)として使用される。本動詞でもなく、助動詞として明示される auxiliar でもない Relativo を直訳すれば「関係動詞」であるが、関係詞が接続詞と同義であるように、関係代名詞は接続詞+代名詞であるとすれば、この場合、活用して、主語と本動詞を結び付ける接続動詞と考えられる。従来の auxiliar という概念範疇には入らない動詞(*perífrases verbais*)をこの辞典ではこう命名したと考えられる。Brandão (Cláudio) : *O Sintaxe Clássica Portuguesa*, Belo Horizonte, 1963.に至って、*enfraquece ou esvazia o seu sentido, assumindo a função de auxiliar*(*ibid*, p. 530-539)とあるように、意味の漂白化(弱化、空洞化)によって、助動詞(≡迂言法動詞)が生じる(転成することになり、Thomaz da Silva Brandão(1888)の段階では、それはなく、それを反映して、Francisco Fernandes, *Dicionário de verbos e regimes* (1940)は、auxiliar ではなく relativo を借用していると判断される。実はある時期まで、両 Brandão を混同して、Brandão(1963)だけを念頭に置いて、考察していたために誤謬に陥った恥ずかしい経緯がある。

それ故に林田提案の「**③**形容詞的機能 = 現在分詞(*particípio presente*)動形容詞 : *Você queimou-se com água fervendo*[≡fervente]とすべきであり、ここに修正する。

以上を踏まえて、*O sol vem (vinha) nascendo.* を分析すると、ジェルンディオ(動名詞 : 動詞的名詞) : **①**名詞的機能 : 主部 : *O sol* + *nacer* が漸次化(動詞 *vir* は意味の漂白化で相助動詞の機能)される、**O sol vem (vinha) nascente.* では、現在分詞 *nascente*(動[詞的]形容詞)は形容詞として、動詞的機能を果たせない。

一方、*O sol está (estava) nascendo* では、**①**名詞的機能を果たし、*a nacer* と同義と看做され、主部 : *O sol* + *nacer* が(過去)現在化されている。

O sol está (estava) nascente. では、太陽が昇っている(た)という状態、一時的属性を表わす自動詞であり、助動詞ではない。

O sol nascendo. と *O sol nascente.* という表現では、前者が動作を示し、後者は昇っているという静的状態(一時的属性)を示している。文脈によって過去時制で「昇っていた」という意味もあり得る。Cf.使用頻度数 : *nascente* : 6,842(/8,162) ≃ 83.8% ; *nascendo* : 1,320(/8,162)

≒16.2%([NOW Corpus: Portuguese](#) : 最終閲覧日:2024 年 12 月 10 日)

また、(O dia) amanhecendo/amanhecendo や O sol se pondo/poente;o pôr do sol についても上記と同様の例文, 分析が可能である. Cf.使用頻度数: se pondo: 95(/1,433)≒6.6%; poente: 1,338(/1,433)≒93.4%, ただ, amanhecendo は 115 の使用頻度数があるが, amanhecendo は検出されないことも指摘しておきたい. ⁴⁾ ([NOW Corpus: Portuguese](#) : 最終閲覧日:2024 年 12 月 11 日)

これまで, ジェルンディオ(動名詞: 動詞的名詞): ③形容詞的機能=動(詞的)形容詞(現在分詞): *Queimou-se com água fervendo*[= *fervente*](Aurélio.(1975-2010)による)の林田提案に縛られ, ③形容詞的機能≒動(詞的)形容詞(現在分詞)であるという解釈に立てなかったことが障壁となって, 上記の O sol vem (vinha) nascendo. , または, (O dia) vem (vinha) amanhecendo.や O sol vai (ia) se pondo.において, (O dia)+ amanhecer や O sol+pôr-se が主部として「漸次化」という①名詞的機能を果たしていることに気が付かなかった.

ただ, vir に関して, *Dicionário Verbo Língua Portuguesa* (2006): auxiliar aspectual(相助動詞)として記述がなく, そもそも無記述であるのは非常に不思議である. 他方, ir に関しては, 相助動詞の記述がある. こうしたアンヴァランスな記述をみるだけでも, 言語が歴史的(通時的)に自然に連続的であることに対して, その都度共時的に設けられる基準が言語の歴史的連続性, あるいは新旧の混在性をカバー(フォロー)するには至らない事例を今更ながら, 観察した思いである.

註:

1) 下記 2 例文:

1. Quando do início do uso dos telefones celulares, hoje um vício pior do que o fumar, graças à sua transformação em minicomputadores, era tolerado o uso do “viva voz”.Você corria o risco de, observado de fora, se considerado doido, por **estar a falar** sozinho: 携帯電話の使用が始まったときから, 今日ではミニコンピューターへの変化のために, 喫煙よりも悪い中毒となっているが, 「ハンズフリー」の使用として容認されるものの, 外から観察すると, 一人通話が尋常ではないと判断される危険を冒していたのである:

BR: 2016 年 4 月 10 日: Explicações sobre a lei para pessoas de boa vontade (X)

2. É natural que haja conversas. Os rumores são inevitáveis no mundo do futebol. Há muitos jogadores com quem podemos **estar a falar** e a estabelecer uma relação se surgir alguma oportunidade. É nossa obrigação manter contato com os jogadores: 会話があるのは自然なことです. サッカーの世界では噂は避けられません. 機会があれば話したり, 関係を築くことができる選手はたくさんいます. 選手たちと連絡を取り続けるのは私たちの義務です:

BR: 2017 年 12 月 18 日: Diretor do Barcelona admite conversas com Griezmann, do Atlético Madrid:[Diretor do Barcelona admite conversas com Griezmann, do Atlético de Madrid \(globo.com\)](#)

両例文ともにブラジルの資料であるにもかかわらず, 現在進行相: estar falando(あるいは, 例文 2)では estar estabelecendo も)ではなく, 行為を現在化する形式: estar a falar(+ a estabelecer)を取っている.

[NOW Corpus: Portuguese \(corpusdoportugues.org\)](#) : 最終閲覧日:2024 年 4 月 16 日

2) RelativolConcluir-o mesmo que acabar por:”Concluía por lhe pedir que abdicasse.”(STRINGARI, P. J. *Regimes de Verbos*. Niterói: Escolas Profissionais Salesianas, 1936. (Volume II, 1937) —Seguido de gerúndio,tem a mesma significação precedente:”Conclui o dr. Carneiro atribuindo ao influxo do *sem* a anteposição do pronome regime.”(Ruy Barbosa, *Réplica*,1902, n.240) in Francisco Fernandes, *Dicionário de verbos e regimes* (1940-2008).

3) ただ、[NOW Corpus: Portuguese \(corpusdoportugues.org\)](https://corpusdoportugues.org)で検索すると、下記のような検出結果となった：

Concluir por：頻度数：461 例：下記にあるように不定詞ではなく、名詞が後続するのが通例になっている：

O juiz pode concluir por a não punição. A questão sentimental tem de ser levada em conta；裁判官は処罰がないと結論付けることができる。感情的な問題は考慮に入れられる必要がある：BR (12-03-09)：Anteprojeto de novo Código Penal vai prever possibilidade de aborto：[G1 - Anteprojeto de novo Código Penal vai prever possibilidade de aborto - notícias em Política](#)

また、concluir por + infinitivo は、動詞が限定的で、統計的に下記の動詞しか見当たらなかった：

1. Distender：Nesse caso, será uma explicação pormenorizada dos motivos que levaram a equipe técnica a concluir por distender o prazo；この場合、技術チームが期限を延期すべきであると結論付けた理由の詳細な説明になります：BR (16-01-16)：Gustavo Britta: Anotações sobre incidente de insanidade mental no CPP：[Gustavo Britta: Anotações sobre incidente de insanidade mental no CPP](#)

2. Os ministros podem concluir por devolver a denúncia à Raquel Dodge.：閣僚は告訴状をラケル・ドッジに差し戻すことで結論を出すことができる：STF decide futuro de denúncia contra Temer; o que pode acontecer：[STF decide futuro de denúncia contra Temer; o que... | VEJA](#)

また、動名詞が後接する動詞は dizer で、ブラジル・ポルトガル語、欧州ポルトガル語において、等しく使用されるものの、12 例にとどまっている。

Quero apenas concluir dizendo que há uma responsabilidade objetiva, independentemente da culpa ou da responsabilização política, que era importante, junto das famílias, que o Estado pudesse reparar prontamente e disse, na altura - e volto a repetir -, espero que essa mensagem possa ser escutada, que o Governo tome essa iniciativa rapidamente：罪悪感や政治的責任に関係なく、客観的な責任があり、家族の間で国家が速やかに修復できることが重要だったということで結論を出したいだけです。そして私はその時、もう一度繰り返しますが、このメッセージが届けられることを願っており、政府がこの取り組みを迅速に講じるようにと言いました：PT (17-06-26)：Passos pede "desculpa por ter usado dado que não estava confirmado"：https://www.rtp.pt/noticias/pais/passos-pede-desculpa-por-ter-usado-dado-que-nao-estava-confirmado_n1010608：

([NOW Corpus: Portuguese](#)：最終閲覧日:2024 年 12 月 12 日)

ただ、直説法・時制(現在・完全過去・不完全過去)人称活用した concluir dizendo の用例は豊富で、462 例文に上り、用例が少ないものの 1 人称単数現在形は、90%に達し、他人称では現在 v.s. 過去形が約 5 割で拮抗しているものの、concluir por dizer は用例ゼロで、他方 acabar por + 不定詞及び+動名詞について、それぞれ、直説法・時制(現在・完全過去・不完全過去)人称活用：acabar por dizer:368 例(/481≒76.5%)、現在形との対比で、1 人称単数・完全過去形：8 割強、3 人称単複完全過去形：25%～65%、同：acabar dizendo:113 例(/481≒23.5%)、同様に現在形との対比で、1 人称単数、3 人称単複・完全過去形：約 6 割強となっている。これを考えると現代語における concluir por dizer：用例ゼロの理由は今後考察に値する。

参照：別添資料：改訂版：表題：助動詞 **acabar + de** 直接目的不定詞から考える
(20241214),p.220-25

4) ただし、*amanhecete* の辞書記述は下記 URL などから確認されるものの、使用範囲が文学などに限定され、詩的言語、修辞として記述される可能性がある：

[Amanhecete - Dicio, Dicionário Online de Português](#)

[AMANHECENTE - ポルトガル語辞典での *amanhecete* の定義と同義語](#)

[Repositório Institucional da UnB: Canções da cidade amanhecete : urbanização, memórias e silenciamentos em Feira de Santana, 1920-1960](#)

参考文献：

大武和三郎編『葡和辞典』(1937)

『現代ポルトガル語辞典』池上岑夫，金七紀男，高橋都彦，富野幹雄，武田千香編，白水社
(1995-2008)

『プログレッシブポルトガル語辞典』市之瀬敦，トイダ・エレナ，林田雅至，吉野朋子編，小学館(2015)

Brandão (Cláudio) : *O Sintaxe Clássica Portuguesa*, Belo Horizonte, 1963 :

<https://archive.org/details/SintaxeClassicaPortuguesaPeloProfessorClaudioBrandaoACompleteStudyOf/page/n141/mode/1up?q=participio+presente>

Dicionário Aurélio da Língua Portuguesa(1975-2010)

Dicionário Verbo Língua Portuguesa (2006)

Francisco Fernandes, *Dicionário de verbos e regimes* (1940-2008) :

[FF dico : Free Download, Borrow, and Streaming : Internet Archive](#)

URL : [NOW Corpus: Portuguese](#) : 最終閲覧日:2024 年 12 月 14 日

(本研究ノート(2024 年度)は令和 5 年度科学研究費助成事業・基盤研究(B) (一般)「ポルトガル語の理想的な言語教育シラバスに基いた科学的教育基盤形成」の成果の一端である)

(投稿日 2024 年 12 月 25 日)

(受理日 2025 年 1 月 5 日)